

増改築された大谷石蔵を持つ屋敷の構成

栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究 (2)

大谷石蔵 屋敷 増改築  
公開性

正会員 ○ 小野村一弥\*  
同 佐藤綾美\*\*  
同 安森亮雄\*\*\*

1. 序

増改築された大谷石蔵は、母屋やその他の外部空間と一体となった敷地全体の空間が活用され、さらにそれらが公開されることによって、都市空間の一部として成立している。そこで本編では、都市空間において大谷石蔵を公開しながら活用するための手法を考察するため、前編で検討した増改築された大谷石蔵を対象として、屋敷<sup>註1,2)</sup>の構成を明らかにすることを目的とする。

2. 増改築された大谷石蔵の配置

2.1. 蔵・母屋の配置 増改築された大谷石蔵を持つ屋敷では、母屋と蔵の特徴的な配置がみられる。例えば図1の分析例では、道路に面する母屋の後方に蔵があり、両者のエントランスが独立している。こうした蔵と母屋の関係を整理するために、まず蔵と母屋の配置を検討した(表1)。その結果、蔵が単体で母屋の後方にある配置が最も多かった(14/45資料)。次に蔵と母屋のエントランスの関係(表2)について検討した。その結果、蔵と母屋が分離しているものが多くみられた一方で、蔵と母屋が一体化し、両者が内部で連続しているものもみられた。また、こうした蔵の配置の要因の一つとして考えられる蔵と母屋の移動や曳屋について検討した結果、道路の拡張による曳屋や別の場所からの移築が若干数みられた(表3)。

2.2. 蔵と母屋の配置パターン 前節で検討した蔵と母屋の配置とエントランスの関係を併せて検討したところ、7つの配置パターンに整理された(表4-1)。パターンAは蔵が母屋の後方に位置し、エントランスが独立しているものである。Iは蔵と母屋が並列し、エントランスの位置が一致している

ものである。ウは蔵と母屋が前面道路に面して並列しているものである。エは蔵が前方で母屋が後方に配置されるものである。オは母屋が無く、蔵が単体のものである。カは蔵が前方に複数あり後方に母屋が配置されるものである。キは母屋が無く蔵が複数配置されるものである。

3. 外部空間の配置・用途と建物用途

増改築された大谷石蔵を持つ屋敷には駐車場などの外部空間をもつものがあり、またその外部空間や蔵、母屋が商業的な用途により公開されている場合がある。例えば、図1の分析例では、蔵と母屋に並列する外部空間が貸駐車場として都市空間に公開されており、蔵は倉庫、母屋は住宅であるため非公開である。そこで、こうした外部空間の配置と用途を検討した(表5)。その結果、貸駐車場と個人駐車場は共に敷地の前方にあるものが多く、接道が重視されていると言える。また、外部空間が並列される配置は貸駐車場のみみられた。畑は敷地内の建物の後方に位置し、庭はどの位置にもある。また蔵、母屋の用途について、店舗、ギャラリー、事務所という商業的に公開される用途か、倉庫、住宅、作業場という非公開の用途かについても併せて検討した(表6)。

4. 増改築された大谷石蔵をもつ屋敷の構成

4.1. 屋敷の構成類型 2章で得られた蔵と母屋の配置パターンをもとに、3章で検討した外部空間の用途と配置、および公開性からみた蔵と母屋の用途を併せて検討した結果、同じ傾向を持つ9つの類型が得られた(表4-2)。類型I、II、IIIは蔵が母屋の後方にあるもので、そのうち、Iは母屋を店舗として公開し、中庭を介して敷地の後方に蔵があ

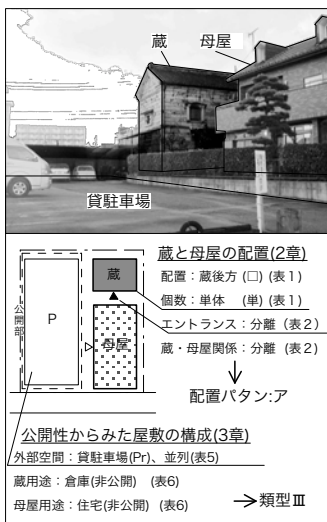


図1 分析例(No.33 IS邸)

表1 蔵と母屋の配置

	蔵前方■ (10)	蔵後方□ (15)	並列△ (12)	母屋無し○ (8)
蔵単数	母屋 蔵	蔵	蔵	蔵
38	(7)	(14)	(12)	(5)
蔵後数	蔵	蔵	蔵	蔵
7	(3)	(1)	(0)	(3)

表3 移築、曳屋

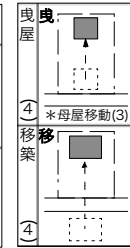


表2 蔵と母屋 エントランスの関係

	一致 (7)	独立 (31)
一体化	蔵 母屋	蔵 母屋
6	(4)	(29)
分離	蔵 母屋	蔵 母屋
32	(3)	(29)

表6 公開性からみた建物用途

	蔵	母屋
公開	店舗 (10) 事務所 (2) ギャラリー (2)	店舗 (8) 事務所 (4)
非公開	倉庫 (35) 住宅 (3)	住宅 (32) 作業場 (1)

表5 外部空間の用途と配置

用途	配置			
	前方	中間	後方	並列
公開	貸駐車場 (23) P (34)	(14)	(14)	(6)
個人駐車場	P (18)	(0)	(5)	(6)
非公開	F (4)	(13)	(5)	(0)
畑	(1)	(0)	(0)	(0)
庭	G (24)	(9)	(9)	(6)

